

〔『法学新報』第32卷11(371)号 大正11年11月6日〕

○中央大学秋季陸上大運動會 中央大学秋季陸上大運動會は去る十月十五日日曜本学中野グラウンドに於て会長岡野学長副会長馬場鏝一博士審判長末弘嚴太郎博士副審判長出羽重三先生及び佐藤正之堀竹雄両先生大松教務主任の指揮の下に最も盛大に挙行されたり当日は稀に見る好天気にして小春日和の心地よく天高く晴れ渡り中野の原は幾千の学生及無慮数万の觀衆を以て埋む<sup>(歎カ)</sup>歎呼の聲轟き渡る中に法、經、商、予の各科の旗幟並に宣伝ポスターは場内万国旗と共に翻り返つて美觀を添ふ午前八時校旗及び優勝旗の到着と共に開會の幕は落されたりプログラムの順に依り各種競技開始さる選手は脱兎の如く走り出す毎に各科の応援団は旗を振り太鼓を鳴らし応援歌を高唱すそれに合して学生及び觀衆は手に手に小旗を打ち振り声援して止まずその声天地を震わせ勝負のすむ毎にドット歎呼の声を挙く場内の一隅に陣取たる陸軍軍樂隊はしきりに軍樂を奏して選手の意気をそそり活気を添ふ各科の宣伝部は競ふて場の内外を活躍し新聞係は死力を竭して号外を発行し以て觀衆へ配布して競技の進行及種種の報道に尽す競技中下駄競走パン喰猫袋競走等特に觀衆を抱腹せしめたり槍投彈丸投等亦大に本学選手の実力を示す

ものありたり写真班は東に西に活動してしきりにレンズを向け撮影に忙しく其間競技は秩序正しく進行せり正午休憩となるや本日の最も呼物たりし仮装は場内に出づ経済科の「南洋祭」とて南洋に於ける酋長夫妻輿に乗り多くの部下に守られ悠悠と進み部下の土人等は槍と楯を持ちて南洋の唄を高唱しつつ過ぎ行く様宛然南洋に遊びその祭を見るの感あらしむ次は法科の「凱旋」とてインデアン武士の行列を模し一将官の率ゆる一隊は手に剣と楯とを携へつつ勇しく踊り行く其の様よく凱旋の意を表したり次は商科の「武士の行列」にて大名行列の如く多くの武士下郎等思ひ思ひの服装にて静静と練り行く斯くして觀衆は各科の輕妙なる仮装に抱腹して止まずそれに続いて商科の応援団は応援歌を唄ひ踊りつつ進む之亦当日の異彩なりき又予科にては綱引を行ひ大いに質実剛健の実を挙げ青年の意気を示せり斯くして午後二時に至れば選手の入場式あり校旗と共に進み行く数十名の選手の緊張せる態度と意気は無言の中に十分露はれて四圍の觀衆の心をおどらせ拍手急霰の如く起る中等学校選手競走に於ては暁星中学優勝し本年本学々友会委員一同の寄贈にかかる華かなる優勝旗はその選手の手落ち大学専門学校選手競走に於ては明大優勝し美はしき名譽の花輪はその選手の腕に飾られたり予科対級競走にては三学年一着し最後に本日の呼物たりし対学部レースは経済科堂堂たる勝利を得薄暮競技を終了せりこの時五千の学生により勇壮に『中央大学之れ我が母校……質実剛健これ我校風』と合唱すれば静寂なる夜の帳に包まれかかりし中野の原にその聲轟き余韻瀾瀾として遠く万物共に

和して本学の前途の洋洋たるを祝福するもの如し斯くして盛  
会裏に本学の栄ある大運動会は終了せり時に午後六時頃なりき  
(記録係松尾生報)